

ながしのかいこ  
長篠懐古（榛葉竹庭）

二萬の 貔貅 鐵鞍を 列ね

三千の 砲響 烟轡を 撼るがす

已に 折戟の 耕器を 妨ぐる 無く

唯 鳴輦の 急灘に 住まる 有り

鳥は 稻雲に 没して 秋氣 老い

風は 蘆雪を 吹いて 夕陽 残す

白頭 古を 弔う 長隄の 上

一望 蒼然として 野色 寒し

二萬貔貅列鐵鞍 三千砲響撼烟轡  
已無折戟妨耕器 唯有鳴輦住急灘  
鳥没稻雲秋氣老 風吹蘆雪夕陽殘  
白頭弔古長隄上 一望蒼然野色寒

解説 愛知県の設楽原に於て、騎馬軍団を主力とする武田軍に対し、織田・徳川の連合軍は、信長の用意した三千の鉄砲を連射した。勝頼は大敗を喫し、以後滅亡の一途を辿った。

語釈 ※貔貅||勇猛な軍隊。 ※烟轡||もやを帯びた峰。 ※折戟||折れたほこ。 ※耕器||耕作具。 ※輦||攻め太鼓。 ※急灘||早瀬。 ※稻雲||広い別に雲のように広がる稻。 ※蘆雪||白い芦の穂。 ※蒼然||薄暗いさま。

通釈 勇猛な二万の武田軍は騎馬を連ね、織田軍三千の砲響はもやを帯びた山々を撼るがしたと云う。已に折れた刀戟も朽ち果てて農具を妨げること無く、唯、早瀬が当時の攻め太鼓を鳴らしているかのように聞こえる。秋も尽きんとして、鳥は頻りに稻雲の中に舞い下り、日は没せんとして、風は白い芦の穂を吹いている。白頭が古を弔いつつ長堤の上に立てば、ただ一望薄暗く野色は誠に寒々としていた。